

ニコニコボックス： 28日現在累計 465,000円

小島 専吉君 (新潟万代RC) いつもお世話になって居ります。今日は卓話にお呼び頂き恐縮して居ります。三条北クラブの皆様の益々のご発展をお祈り致します。

鈴木 守男君 (三条東RC) 北RCの先輩会員の皆様にはいつもご指導いただきありがとうございます。

小林 満君 第2分区アシスタントガバナーの小島専吉様、三条東クラブから鈴木守男さんが出でくださいました。ありがとうございます。小島AGからは卓話を頂戴いたします。どうぞ宜しくお願い致します。

本間 重満君 //

米山 キクエ君 //

斎藤 正君 第2分区小島AG、遠路ありがとうございます。貴重な体験話に胸がワクワクします。

丸山 勝君 新工場の竣工式も無地終わりました。あとは借金をコツコツ返すこと。ああ～

梨木 建夫君 本日のガバナー月信に家族委員会の事が掲載されておりましたが、その中に初代の家族委員長の私が紹介されております。どうぞご家族を大切に仲間を大切に良いお年をお迎え下さいますよう、少し早いですがお祈り申し上げます。

山本 賢君 小島AGの訪問を歓迎して。

佐藤 弘志君 小島AG、ご指導宜しくお願いします。

佐藤 義英君 久しぶりにゴルフのニギリがはいましたので!!

大野 新吉君 小島AGようこそ!!ご指導宜しくお願いします。

駒形 実君 BOXに協力

西村 護君 //

馬場直次郎君 途中早退します!／

横田加代子君 BOXに協力です。

*小島AGよりお車代をそっくりBOXに頂きました。

卓 話： 「太平洋横断90日」

RI第2560地区第二分区アシスタントガバナー小島専吉様(新潟万代RC)

中條GBのお手伝いとしてガバナー補佐をさせていただいています第二分区、新潟万代RCの小島専吉です。私は生来、ロータリーには模範的な人間ではないのですが、ここ2・3年欠席がちだった処アシスタントガバナーを仰せつかってしまいまして、中條さんとはどういう方だろうと心配しておりました。私は父方の祖母が東裏館の出身です。子供の頃から三条の方は凜とした素晴らしい所だと思っておりました。お陰様で、私ごとき者がアシスタントガバナーを拝命して半年が経ちます。中條GB、斎藤地区幹事のご指導の基、会員の皆様のご協力を頂き私のような者が務めさせていただき、



また会員増強も上昇気流にあるように思います。三条北クラブの皆様に敬意と親近感を懐いている一人です。今日は私の個人的道楽の話をお聞き下さるという事でお招きいただき、貴重な30分間皆さんが「いい時間が過ぎたかな」と思って頂けるような役目が果たせるかどうか不安ですが始めさせていただきます。

1992年、15年前に太平洋を横断した動機、途中で感じたこと等をお話させていただきます。

ヨットに出会いましたのは45歳の時です。横からの風で進むことに非常に感動を覚えました。モーターボートと違って舳先が波にぶつかる音、風の音だけですが、グライダーが滑空するごとく進んでいく事に対して非常に感動を覚えました。1週間後に友達と横浜で39万円のヨットを195,000円ずつ出し合い買いました。新潟の浜で回りに支障もなく自己流で始めました。1年後にクルーザー（寝室、台所ある）の仲間入りをさせていただきました。ヨット仲間との話の中で「裏日本で太平洋を横断した人はいない」と言うことで、又やるからには、時間、お金、体力、技術が必要ですが何よりも時間が必要というなかで、出来るのは「小島さん、あなただ」と言われ生来のお調子者が自分でもその気になってしまいました。それが48歳です。

それから2年後50歳、1992年3月5日にロサンゼルスを出ました。5月30日に関門海峡を抜けました。隠岐の島横を通って新潟港に入りました。90日間の冒険旅行、太平洋横断の旅を行いました。

動機と致しましては、皆にあおられた事がひとつ。山をやっている方は「いつかヒマラヤへ、アルプスへ」ということと同じく、ヨットをやり始めた者には太平洋はたまらない目標というか、あこがれの航海です。

丁度、NHKの大河ドラマで織田信長をやっておりまして、信長が人生50年と言っていましたが、私が50歳。成人して30年ですがこれから又30年、80歳です。人間の平均寿命が80歳だとすれば50歳というのは折り返しのターンのように思っておりました。体力、商売、家庭、子育てもめどがつき、家内とは重たい存在ですが夫婦とは他人の始まりかなと思いつつも重い何か釈然としないと感じていたころです。

私の「小島専吉」という名前は同じ名前が4代続いています。父が亡くなると専吉と名のりしました。大学を卒業後も新潟に帰らなければならないというような、真綿で首を絞められるような人生としては不完全燃焼という思いがありました。また旧制の教育を受けられた方々のような毅然とした物の価値観等を考えたとき、私はこれからの30年何に向かって行くのかな、などと考えました。そこで、この機会に万が一死ぬかも知れない「太平洋横断」で90日間、あらゆる、いっさいの事から離れ、大自然の中で90日間を過ごすこともこれからの30年の糧になるのではないかと思います。

一番反対されたのは金融機関の方でした。「社長が90日間も連絡も取れないようなことは考えられない。貸してあるお金は全部返して行って下さい。」と言われましたがそれを押し切って出かけました。